

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第四中学校 第1学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 内容を整理して言葉を選び、必要なことを書く力。 文章を書く上で適切な助詞を用いて書く力。 文学的文章において心情を読み取る力。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導、作文指導等、「書く」機会を意識的に増やすよう心掛ける。 ペアやグループで登場人物の心情について話し合う機会を設ける。 	<p>成果①『少年の日の思い出』の評論文が書けた。②指名なし発表ができた③話し合い活動ができた。</p> <p>課題 低位の生徒に最低限の学力をつける。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> 人の意見を聞き、それに対し、自分の意見を述べる。 話し合い活動において、の停滞。 様々な資料から読み取り、結果を導き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク、話し合い活動参加できていない生徒への働きかけ。 他の意見に対して、視点をかえるような見方ができるような働きかけ。 複数の資料からどんなことがありうるのか、考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でグループワーク、話し合い活動は不十分であった。 資料提示には今年度導入されたタブレットが有効であった。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算問題の定着 家庭学習の習慣化 「思考・判断・表現力」の問題を解く力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算問題に数多く取り組ませる。 対話的活動に繋がるような課題を設定し、考えを互いに伝え、共有する場をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに教え合う活動(話し合い活動)は、コロナ禍で制限があったが、比較的できた。次年度に向け、タブレットを有効活用し、話し合い活動をより充実させる指導を行う。 基礎基本の定着に差が出てしまっている。基本問題を繰り返し解かせ、できるようになったという、自己肯定感をもたせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の定着 学習した内容を日常生活と関連付けて活用する姿勢の育成 自らの意見をまとめ、表現する力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 復習の時間を増やし、知識の定着を図る。 日常生活と関連深い事象や現象を扱う。 考えをまとめ、発表する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストを定期的に行い、生徒の基礎的な知識の定着に繋げることができた。 実験についての考察を自分で考え、表現することが苦手な生徒が多い。自分の意見をまとめたり、表現する活動を増やす。 資料映像をICT機器で掲示することが、生徒の興味関心の向上に繋がった。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、歌唱を伴う授業の際の制限や、マスク着用での歌唱における、生徒の発声法の確認の不十分さや、生徒の表現意欲低下。 クラス単位でしか歌ったことのないことにより、校歌などの歌唱意識の低下。 ICT機器を活用した学習、取り組みの研究。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱に関しては、生徒間の距離を保ち歌唱すること。 模範的な合唱の動画を鑑賞することで、より良い発声法を考えさせ、理論的により良い発声法を理解させる。 ICT機器を用い、表現の探求や、幅広い鑑賞教材を授業で活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインで作成する作曲ツールが、オンライン学習で非常に有益なソフトであった。生徒の創作の意欲が高まり、音楽に関する興味・関心が非常に高まった。 合唱・歌唱への取り組みが全く積み重ねられていない。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 新しい情報や、少しずつレベルを上げていくことに興味のある生徒が多く、資料の提示のしかたにより多くの生徒が向上心をもって活動することができる。 飽きさせず常に興味のある事象を組み合わせながら制作活動を続けていかれることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味深い情報を提示するために、教師側にも常に新しいものや生徒から興味を引き出せるもの、普遍的なもの、それぞれに対してアンテナを立てている状態を以たい。 またICTも活用した情報収集や、意見交換の場を増やし、興味をより深いものに引き上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかのパターンが考えられるデザインを、ICTによる試行錯誤を通し、より視覚的に残る資料を材料とした授業を経験することができた。また、技能面でも従来の一斉授業で苦慮していた指導を動画資料により効果的にすることができた。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に体力レベルが低い 身体の使い方や基本的な技能が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 補強やトレーニングを毎時間取入れ、体力向上に努める。 手本などを参考にしたり、自分の動きをICTで撮影したりしてイメージをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> まだまだ基礎的な体力が低いので、様々な運動に取り組ませる必要がある。 手本や自分の動きをchromebookで確認して、技能の向上につなげた。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> (技術) 時間と自分の力量を把握したうえで作業を進めることができない生徒がいる。 安全面の意識 (家庭科) 自らの体験から学習内容を理解し活用したり工夫できるようにする。授業を受ける意欲はある。 作品製作意欲はあっても技術が伴わない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> (技術) Chromebookの活用。 補充的な学習時間の確保(PC室・昼休み)。(家庭科) 自ら考えたり、工夫しようとする時に適切な助言を与えるようにする。 生徒間の意見交換や工夫点を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> (技術) 年度当初よりChromebookを活用していたこともあり、端末を自然な形で活用させることができた。場所を選ばず活動できるので、進度に差がつきにくかった。 (家庭科) 袋の製作や刺し子の実習を通して自分で計画的に集中して取り組む事ができるようになった。 衣生活の基礎的な
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション活動に積極的に取り組み、口頭でのやり取りに慣れている一方、単語の綴りなどの正確性に欠ける面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> やり取りを繰り返し、表現が定着したところで、徐々にライティング活動を取り入れていく。 基本的な語彙については、スプリングコンテストや小テストを行い定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> やり取りを繰り返すことで、基本的な表現に慣れ親しませることができた。 単語テストを一定期間、毎時間行うことで、単語の綴りに対して意識させることができた。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響を受けたからこそ考えさせたい内容項目を取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な内容項目と絡めて授業で取り上げる。 	<p>成果 クラスの実情に合わせ、内容項目を工夫して取り上げるとい目標を達成できた。</p> <p>課題 とくになし</p>
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 具体的にはオリパラ、キャリア教育、SDGs、校外学習の学びを深める学習に取り組んだ。 そうした学習の中で、集団から取り残されないようにユーザーフレンドリーな学びを教員サイドが提示して必要性を感じた。 一人一役。他人に依存せず、責任をもって自身のやるべきことに最後まで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookの活用。(jam board,スライド,Forms,他) 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事においてスライドを用いて班単位で活動した。 「職業調べ」(2種)、「川越校外学習」、「SDGs」他職業講話を実施し働くことの意義について学び取ることができた。 川越校外学習では、その行程などについて情報端末を活用した。